

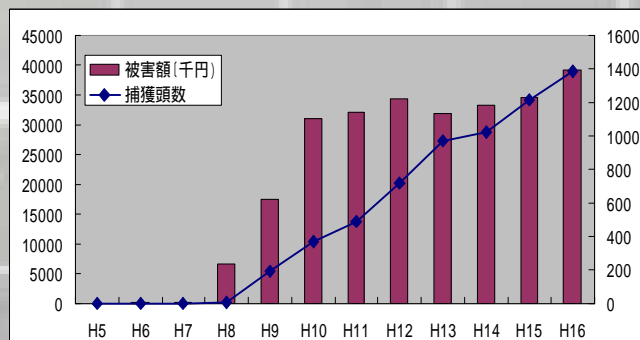
# アライグマによる農作物被害の見分け方

問い合わせ先

アライグマ研究グループ 佐藤 万里子  
E-mail: msashika@vetmed.hokudai.ac.jp  
Tel: 011-706-5104 / Fax: 011-706-5569



北海道では、1990年代半ば頃より道央圏を中心にアライグマによる農作物への食害が急増しました。アライグマは、何でも食べる雑食性ですが、トウモロコシやメロン、スイカ、イチゴなどが好物です。旺盛な食欲と繁殖力を持つアライグマの被害対策にとって重要なことは、被害の早期発見ですが、夜行性のアライグマによる食害現場を被害農家が直接目にするのはほとんどありません。



北海道の農業被害額とアライグマ捕獲数の推移 (北海道資料より作成)

ここでは、誰でもわかるアライグマ被害の判別方法とその形態について簡単に紹介します。

アライグマは、特徴的な形をした器用な手足を持っています。このため、もっとも確実な判別方法は、被害地に残された**足跡**や**爪痕**です。食痕は、一部作物種を除いて、在来動物であるタヌキやキツネのそれとても似ているので、あまり判別には向いていないようです。糞は、食べ物や季節、個体差などによる変化の幅が広いので、やはり同定は困難です。



道内で最も一般的なトウモロコシへの食害皮を剥いてきれいに食べることが多いようです



前肢  
3~7cm

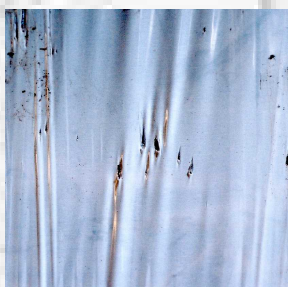


後肢  
10~12cm



食痕には、メロンやスイカなどのようにはっきり犯人のわかる被害もあります (写真: 石狩支庁)

人間の手形を思わせる独特の形  
手足の大きさが異なるので、足跡の判別は比較的容易  
マルチシートや小沢など、ぬかるんだ地面に残りやすい



鋭い爪で配合飼料の袋や牧草ロールのラップを破ってしまうという被害もあります



写真提供: 神武海氏

畜舎などに住み着くと、糞尿害に加えて、人獣共通感染症や風評被害などの心配も出てきます